

地域交流センター活動報告書

平成 30 年度



愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業 「ホームカミングデー」	4
2. 臨床検査技師実践セミナー	10
3. 思春期保健スキルアップ研修会	12
4. 高校生の生命科学体験プログラム えひめ高校生生体機能研究プログラム ー筋の収縮力と持久力ー	16
5. ブック&メディカルトーク	19
6. 地域包括ケアシステム強化のための人材育成支援事業	20
7. リレー・フォー・ライフ 2018	24
8. 水害災害支援ボランティア活動	27
9. 麻生小学校 6 年生 大学授業見学「共に生きる」学習	29
III 調査研究	
1. 住民主体の地域づくりが実践できる保健福祉の人材育成 ーアクションリサーチによる研修の開発・評価ー今治に関する意識調査	32
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	35
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	39
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	41
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	45
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	48
6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱された ボランティア活動等）	59
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	61
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	62
VI 地域への施設開放状況	69
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	72
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	73
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	75
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	77

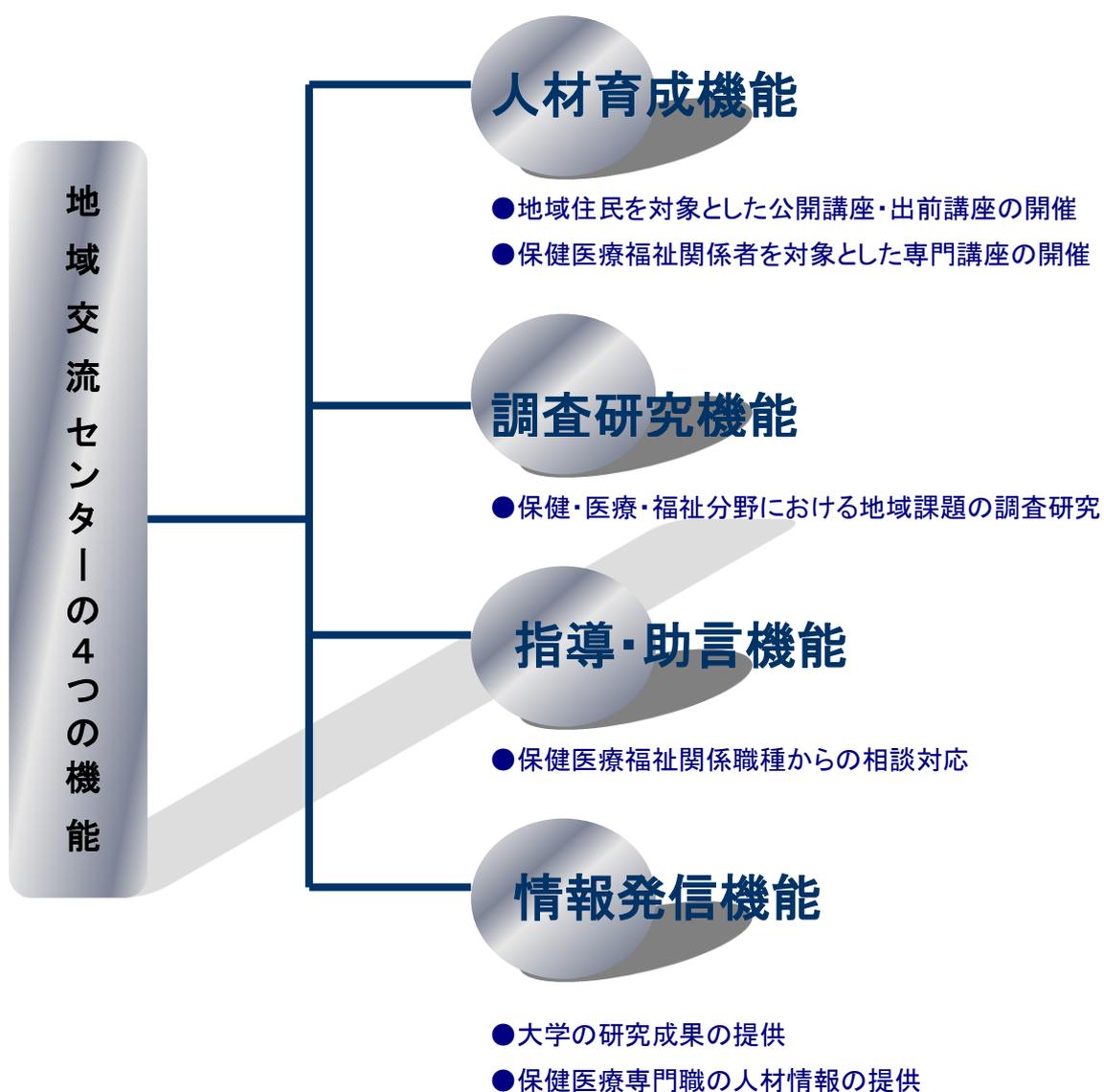
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成16年4月に設置した。

2 地域交流センターの4つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

II 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 平成30年度第8回「ホームカミングデー」 (同窓会木蓮会との共催事業)

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体

本学同窓会（木蓮会）と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：窪田静准教授（地域交流センター員）

実行委員：豊田センター長、地域交流センター員

協力教員：

藤原助教、宮宇地助教（看護師分野）

中越講師、今村講師、井上助教（助産師分野）

田中（美）准教授、奥田講師、入野講師（保健師分野）

徳原講師、細川助教（臨床検査技師分野）

*ほかに、技術教育担当教員1名、ボランティア教員延べ13名

4) 事業内容

(1) 日時：平成30年6月23日（土）9：30～12：30

9：30～10：30 全体会・特別講演 10：45～12：30 分科会

(2) 場所：医技大キャンパス 150・116・117・216・217・218 講義室

(3) 参加者数 198名(内訳：卒業生93名、在校生113名、教員24名、地域住民13名)

(4) 実施内容

①全体会：学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院保健医療学研究科説明会



中西学部長による
大学院保健医療学研究科入学説明



特別講演講師：高山良二 氏 認定 NPO 法人国際地雷処理地域復興支援の会
 テーマ：「地雷村での挑戦 ―カンボジアの復興に奔走した 16 年―」

高山氏は、約 20 年前、陸上自衛官の PKO（国連平和維持活動）として、内戦で荒れ果てたカンボジアを訪れ、破壊された道路や橋の整備を担った。一方、大量の地雷が埋まっている現状を知り「必ず戻ってこよう」と決意。自衛隊で地雷処理技術を習得し、定年退官した 3 日後にカンボジアに戻った。



高山良二氏 講演会の様子

地雷除去作業は、通常訓練を受けたプロが行う危険なもの。しかし高山氏は、住民に地雷処理の技術を教え、住民参加型地雷除去活動を展開した。自らが村の地雷を除去することで被災者を減らすことができ、雇用を生み出して貧困の解消、地域の復興にも結びようとしている。

②分科会

分野	分科会テーマ	ゲストスピーカー
看護師	◇かかわりを大切にした訪問看護 ◇僕が大学院を目指した理由	日田さおりさん（訪問看護ステーション愛媛） 石川桂さん（伊予病院）
助産師	◇大学病院の助産師活動と 臨床で見つける研究の種	平尾真美さん（徳島大学病院）
保健師	◇みんなの健康応援団 ～赤ちゃんからお年寄りまで～	亀沖菜津美さん（内子町役場） 宇都宮愛理さん（愛媛県保健福祉部）
臨床検査技師	◇大学院で学んだこと： 研究テーマにたどりつくまで ◇中規模病院での検査業務	豊田紋子さん（山口大学医学附属病院） 水口将吾（済生会松山病院）

分科会報告

「看護師分科会」

参加者 卒業生 47名、ゲストスピーカー2名、

在校生 39名（4年生12人、3年生23人、2年生3人、1年生1人）

事前準備として在校生の希望施設の情報収集をして、希望施設の卒業生と同じグループになるように配慮した。参加人数が多かったため、6～7席×14グループとなり、教員の席は確保できなかった。

まず2名のゲストスピーカーに講演いただいた。

公益社団法人愛媛県看護協会訪問看護ステーション日田さおりさんは、「かかわりを大切にした訪問看護」のテーマで、講演を頂いた。日田さんは家族の介護をきっかけに大学病院を退職、その後訪問看護ステーションに入職され、現在は管理者である。講演の中で日田さんは、30代の母親を在宅で看取る子どもへの看護支援について、ケアを通して母親の温もりを感じながら、残された時間を後悔しないよう援助する、納得した看取りを経験すれば家族が今後生きていくための礎になるとお話をされた。



伊予病院の石川桂さんは「僕が大学院を目指した理由」のテーマで講演を頂いた。石川さんは学生の頃、ある先生の講義に刺激を受け、教員になりたいという夢を抱いた。大学病院に勤務していたが、本学の大学院を受験するにあたり、大学院通学に理解のある病院に勤務先を変更した。いずれは本学の教員になりたいと考えている。学生や卒業生に対しては、具体的に大学院で勉強している内容や、ワークライフバランスも考えながら仕事、勉強、趣味にも取り組んでいると話をされた。



ゲストスピーカーの講演が終わったあと、ゲストスピーカーの2人にもグループに入ってもらって茶話会を行った。お菓子を食べながら、他施設や他県の卒業生間で仕事の様子やプライベートな話をする姿や、在校生が卒業生に病院の情報などを積極的に質問する姿があり、和やかで活発な情報交換ができていた。短い時間であったが、有意義な時間となり、話が尽きない様子であった。



「助産師分科会」

1. 参加者 合計 43名 うち前日～当日追加申込 (2名)
 - ・在校生 24名 (専攻科 10名・看護 14名)
 - ・修了生 19名、(託児なしのお子さん2人)
 - ・教員 6名 (担当2名・手伝い4名)

2. 分科会の流れ 10:45～12:20

総合司会 井上明子 (助産分科会担当教員)

- 1) 助産支部長挨拶 木蓮会助産支部長 野上聖子さん
- 2) ゲストスピーカー 徳島大学病院 平尾真美さん (専攻科1期生) 30分

専攻科学生時代のエピソードと、大学病院での助産師活動について、ご自身の5年間での分娩介助件数や実践の経験をふまえて語っていただいた。また、院内助産やエキスパート助産師認定など、様々な先駆的取り組みを行っている大学病院の中で、今後、自分自身が学びたい内容についても具体的に話していただき、卒業後も学び続けている様子がよくわかるスピーチであった。また、研究の種として、看護学部の卒業研究から現在、院内研究で自分が取り組んでいる様々なテーマの紹介など、日常の実践における疑問を研究へとつなげていることが語られた。

- 3) フリートーク 60分

在校生 (助産と看護学生) と修了生と一緒に座る8名程度のグループに配置し、和やかに会話が弾んでいた。グループは、同じ実習施設で実習していた先輩と一緒にするなど工夫したため、実習直前の専攻科の学生にとって直接先輩から話を聴ける貴重な機会となった。また、看護学生にとっては、現役の助産学生や医療現場で活躍する助産師から話を聴ける良い機会となった。その他、就職先で悩む学生に先輩からのアドバイスも頂き、学生が将来、助産師として活動するうえでの目標も見えてきたようであった。



「保健師分科会」

テーマ「みんなの健康応援団～赤ちゃんからお年寄りまで～」

1. 参加者 合計 32 名

- ・在校生 16 名 (2 年生 2 名 3 年生 13 名 4 年生 1 名)
- ・卒業生 13 名
- ・教員 3 名

2. 分科会の内容 10:45～12:20

開会 ゲストスピーカー紹介 5 分

ゲストスピーカー講話 各 20 分

内子町役場 地域医療・健康増進センター 亀沖 奈津美さん (2014 年度卒業)

愛媛県保健福祉部健康衛生局 健康増進課 宇都宮 愛理さん (2013 年度卒業)

亀沖さんには、地元の町の保健師として、母子保健をはじめ住民に身近な活動に取り組む様子をお話しいただいた。宇都宮さんには、新卒で配属された中予保健所健康増進課精神保健係での精神障害者・家族の集団支援や緊急対応の経験などを紹介していただいた。お二人の活動の共通点や相違点に着目することにより、住民の健康を支援する保健師のイメージを広げる機会となった。



座談会 45 分

在校生と卒業生の混合 6 名程度のグループ編成とし、フリートークの時間を設けた。担当業務や採用試験対策など、和やかな雰囲気です話が弾んでいた。

卒業生紹介 5 分

閉会

「臨床検査技師分科会」

1. 参加者 合計 28 名

- ・在校生 18 名 (1 年生 4 名 2 年生 5 名 3 年生 0 名 4 年生 9 名)
- ・卒業生 10 名
- ・教員 3 名

2. 分科会の内容 テーマ/ゲストスピーカー

大学院で学んだこと：研究テーマにたどりつくまで/豊田紋子さん (山口大学医学附属病院)

講演では大学院での生活や研究内容を聴くことができ、進学を考えている学生と卒業生にメッセージをいただいた。



豊田さんには自身の大学院で経験した2年間を語っていただいた。



中規模病院での検査業務/水口将吾さん (済生会松山病院)



水口さんには、中規模病院の検査業務の実態について語っていただいた。



当直ではなくオンコールにするなど、中規模病院での勤務体制の工夫を聴くことができた。また、実際に現場で使用している機械の紹介を交えながら、各分野の業務を紹介していただいた。

2. 臨床検査技師実践セミナー

1) 概要

本企画は、細胞検査士及び臨床検査技師を対象に、講師を招き、代表的な LBC 法である BD シュアパス法での子宮頸部細胞診(扁平上皮系および腺系)を主体として、子宮内膜(EGBD・特殊タイプを含む)、FNAC(膵・甲状腺・唾液腺・リンパ節)、擦過(口腔・ERCP 下擦過細胞診)も加えた講義および顕微鏡実習を実践し学ぶ機会とする。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学

3) 組織 プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 則松 良明

メンバー・協力者 細川 翔

4) 事業内容

(1) 日時：平成 30 年 9 月 15 日 (土) 12:00~17:30

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室 (講義) 及び 560 実習室 (実習)

(3) 参加者数：総数 24 名

(4) 実施者と講演内容：

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 病院病理部 梅澤 敬 先生

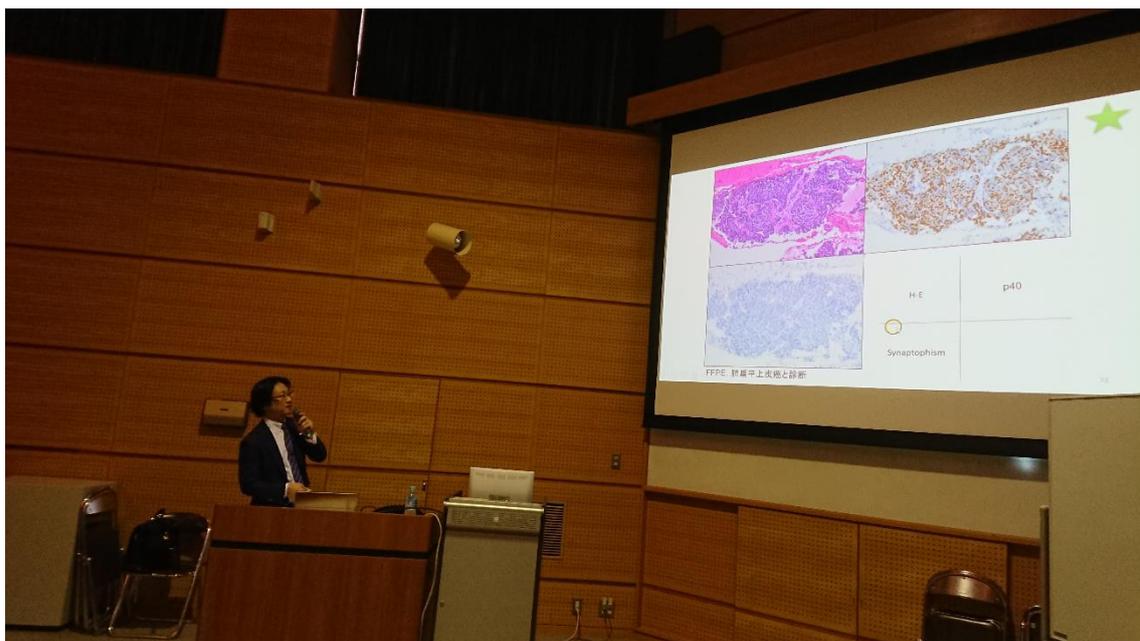
「液状化細胞診によるチェンジマネージメント

～擦過・穿刺吸引細胞診をシステムで保証する～」

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社ダイアグノスティックシステム事業部

澤野 真理子 先生

「子宮頸がん検診における HPV 検査の現状」



東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 病院病理部 梅澤 敬 先生

(5) 参加者の反応

本学卒業生の参加も多く見受けられた。また、臨床現場での実践に関する質問など寄せられ、梅澤先生及び澤野先生よりご回答いただいた。さらに顕微鏡実習の機会が普段なかなかないので、ありがたいとの意見が多かった。

5) 課題と評価

周知の方法について：

- ・ セミナーの周知は開催日の4ヶ月前から大学HPにて周知を行った。
- ・ 参加者にはインターネットからの申し込みをしていただいたが、受付されました等の返信がなかったため、数人より、参加可能になっているのかどうかの問い合わせがあった。次年度は申し込みの確認が参加者に返信されるように設定する必要がある。
- ・ 今回のセミナーは、従来法の細胞像の見方を基本に、新たな見方を習熟することが目的であり、参加者は一様に講演をととても意義深く感じており、顕微鏡実習では技術を自分のものにしようと真剣に取り組んでいた。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

平成 30 年度第 1 回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子ども達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点に沿って他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭、保健主事、PTA 関係者、思春期保健に関わる保健師、助産師、看護師等

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

- ・ 地域交流センター：豊田ゆかりセンター長、江崎ひろみ
- ・ 愛媛県中予保健所健康増進課：出森美和係長、青野桂子、榊原彰子、麓由香里
- ・ 愛媛県四国中央保健所：森眞弓

4) 事業内容

(1) 日時 平成 30 年 7 月 28 日 (土) 13:00~16:00

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 北棟 1 階 150 教室

(3) 参加者数 89 名

(参加者内訳) 養護教諭：30、保健室支援員：2、保健師：16、助産師：9、
臨床検査技師：1、社会福祉主事：1、保育士：3、大学教員 16、
学生：7、その他：4

(4) 実施者と実施内容

① 伊予市内全中学校の思春期教室の取り組み LGBT の授業の実際

伊予市立港南中学校養護教諭 大西 壘子 先生

伊予市立伊予中学校養護教諭 長岡 真紀子先生

伊予市立双海中学校養護教諭 竹本 りえ 先生

伊予市立中山中学校養護教諭 井上 理絵 先生

② 講演「LGBT の基礎知識 正しい理解と対応に向けて」

岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚 幹也 先生

③ 意見交換会・質疑応答

「中塚先生に聞いてみよう!!こんな時どうする？」

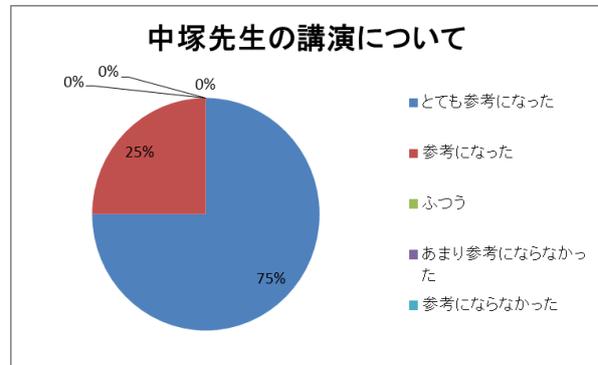
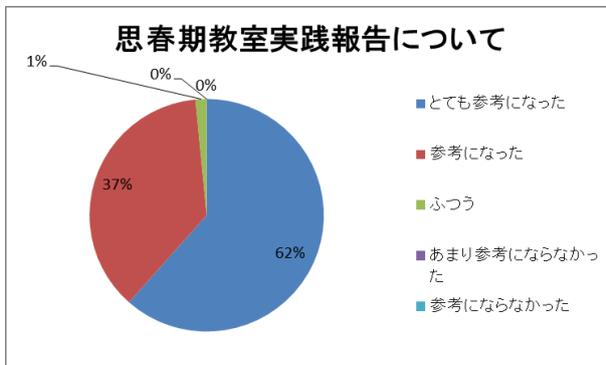
「LGBT 理解のために私たちができることは？」



(5) 参加者の反応

参加者アンケートの結果 (アンケート回収率 89%)

- ・思春期教室実践報告について
- ・講演について



《自由記載より抜粋》

- ・伊予市内全中学校の思春期教室の取り組みは、外部講師だけでなく、学担・学年主任・養教が協力して継続した取り組みがなされ素晴らしい。中塚先生のお話から、小学校での対応の充実が大切と感じた。
- ・LGBTのことは学習しているつもりであったが、実際知らないことが多くとても参考になった。
- ・どんな場面でもLGBTの教育はできること、そのためには教員一人一人が学び理解して、どんどん発信していくことが大切である。少しでも話しやすい環境を作れるよう努める。
- ・当事者の方が子供時代を振り返り、「支援が必要だ」と話していること、「言い出せる環境作り」について、具体的にできることを考えようと思う。

・心の性は、人生に与える影響が大きいと分かった。

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から継続開催し、今回で第 8 回目を終了した。西日本豪雨災害や台風による影響がある中、89 名の参加があり、参加者の性教育・LGBT 教育に対する熱意を感じる研修会となった。小・中・高校の養護教諭の方からは、生徒や保護者と向き合う実践的な質問が多く、中塚先生からの詳細な回答に学び多い研修会となっていた。次年度は、より低学年からの性教育・LGBT 教育について学修を深める研修会を開催していく予定である。

平成 30 年度第 2 回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が生涯を通じた健康づくりの視点にそって他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の市町保健師

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所 健康増進課

共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県中予保健所健康増進課 榊原彰子

メンバー・協力者

愛媛県中予保健所健康増進課：山西佳恵課長、青野桂子主幹、出森美和、麓由香里

愛媛県立医療技術大学 中越利佳

4) 事業内容

(1) 日時 平成 30 年 11 月 12 日 (月) 14:00～16:00

(2) 場所 愛媛県中予地方局 2 階学生実習室

(3) 参加者数 10 名

(4) 実施者と実施内容

①話題提供

・性教育教材の使用状況について～幼児編を中心に～
中予保健所 難病・母子保健係 榊原彰子

・性教育教材の評価～日本思春期学会発表を通じて～
愛媛県立医療技術大学 中越利佳

②意見交換

幼児期編の活用をどのように進めるか

5) 評価と課題

各市町保健センターでは、幼児期編の教材の使用を健診や子育てサロンで利用をしてみたが、幼児期・保護者の性教育の定着化が難しいことが課題として挙げられた。しかし、幼児期の性教育、保護者への性教育は重要であり、今後どのように展開していくかを話し合った。とりわけ、幼児期の対象やその保護者とかかわりのある保育所、幼稚園での何らかの取り組みができないかといった意見が多くみられた。

今後、各市町の保育所、幼稚園での教育や保育士・幼稚園教諭を対象とした幼児期の性教育の研修会や教材の紹介を検討していく。

4. 高校生の生命科学体験プログラム

えひめ高校生生体機能研究プログラムー筋の収縮力と持久力ー

1) 概要

(1) 目的

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が高いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。また、これまで平成 22 年度～26 年度まで実施されていた「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」(生物コース：講師は本学の教員が努めてきた)は毎回定員の数倍と言う高いニーズがあった。事業終了後、生物担当の高校教員の要望もあり平成 27 年度からは本学主催でこの事業を実施してきた。本年度も、高校生の知的探究心に応えるため、昨年度は「心拍と呼吸の関係」というテーマで行った。本年度は「筋の収縮力と持久力」テーマでヒトとマウスを対象とした実験を行い筋の収縮力・持久力についてのメカニズムを探求するテーマで実施した。また今年度は、高いニーズに答えるため、2 回/週 実施した。発表会は参加者全員が集まり、発表 15 分、質疑応答 10 分で行った。

2) 実施主体 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

(1) 講師 岡村法宜 講師 野島一雄 准教授 (地域交流センター員)

(2) 学生ボランティア 臨床検査学科 4 年 3 名

3) 事業内容

(1) 日 時

実 験：第 1 回 平成 30 年 8 月 6 日 (月)、7 日 (火) 9:30～16:00

第 2 回 平成 30 年 8 月 9 日 (木)、10 日 (金) 10:00～16:00

発表会：平成 30 年 8 月 25 日(土) 13:00～15:00

(2) 場 所

本学北棟 365 講義室 460 医用工学実習室 南棟 216 講義室

(3) 参加者

愛媛県立内高等学校生徒 12 名

愛媛県立中等教育学校生徒 12 名 (参加校 7 校) 教員 1 名

4) 実施内容

第 1 回、第 2 回とも同じスケジュール

(1) 開会式

①開会の挨拶

②スケジュール・注意事項 野島一雄

(2) 講義

①動物実験に関する教育訓練 岡村法宜

②各実習のねらい 岡村法宜

- (3) 実習
 - ①ラットの解剖（腹胸部・頭部）
 - ②「筋疲労による筋電図の周波数変化－ヒトによる実験－」
 - ③「筋収縮の加重－マウスによる実験－」
- (4) 結果のまとめ および 発表会についての注意事項
- (5) 閉会式
 - ①閉会の言葉
 - ②実験動物追悼式(動物慰霊碑前)
- (6) 発表会 1校 20分（発表 15分 討論 5分）
- (7) 修了証伝達（発表会終了後）



動物実験に関する教育訓練

5) 評価と課題

募集定員は、一つの実験を深く掘り下げていくために各実施日とも1班3名で1～4班の計12名（4校）とした。今回も応募開始日で募集定員に達した。本年は2回実施としたが、これまでと同様約10分で定員に達した。今回も、募集締め切り後も多くの高校から問い合わせがあった。毎年好評を得ている事業なので、募集人員を増やす、実施回数を増やす等対策を考えていく必要がある。今回も実験終了から約2週間後に発表会を開催した。

今年度は、多くの高校生のからの応募に応えるために、2回実施した。本学の学年歴、高校の学年歴から考えると夏休み期間中の実施は2回が限度であると考え。今後、実施時期（春・冬の長期休暇中）・実験内容、教員およびボランティア学生の負担増などの問題点もあるが、更に検討する必要がある。また、募集方法についても、毎回申し込み開始と同時に定員が埋まること、二年続けて参加する高校があること、また今年度は、前半・後半に同じ高校の参加があったこと等から参加校の選抜方法についても何らかの方策を検討する必要がある。

6) 成果の発表

今回も実験終了後の8月25日に発表会を行った。パワーポイントを用いて各校20分（発表15分、質疑応答5分）の時間で発表してもらった。各校それぞれ異なる観点からの切り口で考察し、お互い活発に質疑応答がなされていた。発表に関して我々教員も考えさせられる内容であった。



ラットの解剖



筋疲労による周波数変化の観察



筋収縮の観察（マウス）



発表会の様子



5. ブック&メディカルトーク

1) 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員による医療（看護）に関する図書の紹介（ブックトーク）と、本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に看護・医療などを考える機会を提供する。

2) 実施主体

愛媛県立図書館と愛媛県立医療技術大学地域交流センターの共催事業とする。

3) 事業内容

(1) 平成 30 年 8 月 7 日（火） 10：00～12：00

(2) 愛媛県立今治北高等学校

(3) 参加人数 3年生徒（医療系進学希望者）12名、教職員3名 合計15名

(4) 実施内容

[ブックトーク]

（県立図書館：教育専門員 石川幸代）10:00～10:50

「人がつながり命がつながる」と題し、医療の現場で働く自分の姿を思い描きながら話を聞けるように、災害や生命倫理に関する本、病院を舞台とした小説等6冊の本を紹介した。大部分が看護師志望の生徒で、理学・作業療法士志望の生徒も数名いた。

[メディカルトーク]

（県立医療技術大学 保健科学部 看護学科 教授 越智百枝先生）11:00～12:00

「これまでの歩みと医療職として大事にしていること」というテーマで、医療に携わってきた経験から感じたことや、高校生に伝えたいことなどをお話しいただいた。医療の道に進んだきっかけや、保健師としての体験談、多くの患者さんと関わる中で感じたことなどをわかりやすく語っていただいた。

4) 評価と課題

県立医療技術大学の先生のメディカルトークと当館職員によるブックトークを組み合わせることで実施することにより、医療関係の道を目指す高校生が、普段接する機会の少ない情報に触れ、明確な目的意識を持って自己実現を目指すことにつながると考えられる。



6. 平成30年度 地域包括ケアシステム強化のための人材育成支援事業

1) 概要

今治・上島地域の地域包括ケアシステム強化を目指し、日常生活圏域において、高齢者の自立支援や介護予防を指向した住民主体の地域づくりが実践できる専門職の育成を図るための会議及び研修会を実施した。

2) 実施主体

主催：愛媛県立医療技術大学・愛媛県

推進のための事務局は本学事務局及び地域交流センターが担当した。

共同機関：今治市・上島町及び今治社会福祉協議会

3) プロジェクトメンバー

大学・今治市関係部局、関係団体等の代表者で組織した。

そのための組織として、人材育成事業推進会議を行い、その部会として人材育成事業部会をおいた。さらに大学内に本事業を具体的に検討・推進するワーキングメンバーをおいた。

学内ワーキングメンバー：野村美千江・田中美延里・奥田美恵・入野了士（公衆衛生看護）

田中昭子（老年看護）

鳥居順子（公衆衛生）

宮内清子・豊田ゆかり（地域交流センター）

4) 事業内容

(1) 地域包括ケアシステム推進に係る人材育成組織設置

①人材育成事業推進会議・自立支援事業推進部会の組織作り

ア)人材育成事業推進会議等の組織化：4月～9月

イ)委員の委嘱等の手続き

(2) 推進会議等の開催

大学、今治圏域自治体の関係部局、関係団体等の代表者で組織し、事業の方向性や目標、計画等を検討する「人材育成事業推進会議」と、推進会議の下部組織として事業の展開を担う「自立支援事業推進部会」を設置し、事業の円滑な推進に向けて協議を行った。

①人材育成事業推進会議の開催：3回（8月、12月、3月）

第1回

開催日時：平成30年8月8日（水）16：00～17：00

開催場所：今治市役所 第2別館 11階 特別会議室第1

出席者：委員6名（欠席1名）その他10名（大学、愛媛県、今治市）

議事：本事業の開催目的・今後の活動等について

第2回

開催日時：平成30年12月13日（木）15：30～16：30

開催場所：今治市役所 第2別館 11階 特別会議室第3

出席者：委員 6 名（欠席 1 名）

その他 9 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：第一回公開研修・地域包括ケア推進専門職研修の実施について
第 3 回

開催日時：平成 31 年 3 月 7 日（木）15：30～16：30

開催場所：今治市役所 第 1 別館 10 階 101 会議室

出席者：委員 5 名（欠席 2 名）

その他 6 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：地域包括ケア推進専門職研修の実施状況及び今後の計画について

②自立支援事業推進部会の開催：4 回（9 月、10 月、11 月、2 月）

第 1 回

開催日時：平成 30 年 9 月 6 日（木）10：00～12：00

開催場所：今治市役所 第 2 別館 11 階 特別会議室第 2

出席者：委員 9 名

その他 9 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：地域包括ケアシステム強化事業及び今後の活動について
第 2 回

開催日時：平成 30 年 10 月 10 日（水）10：00～12：00

開催場所：今治市役所 第 2 別館 11 階 特別会議室第 1

出席者：委員 10 名（上島町から委員を追加で委嘱：1 名増）

その他 8 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：第一回公開研修実施及び地域包括ケア推進専門職研修の実施計画について
第 3 回

開催日時：平成 30 年 11 月 20 日（火）9：30～11：30

開催場所：今治市役所 第 2 別館 11 階 特別会議室第 3

出席者：委員 9 名（欠席 1 名）

その他 7 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：第一回公開研修報告及び地域包括ケア推進専門職研修実施について
第 4 回

開催日時：平成 31 年 2 月 28 日（木）9：30～11：00

開催場所：今治市役所 第 2 別館 11 階 特別会議室第 4

出席者：委員 6 名（欠席 4 名）

その他 7 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：集合研修（セッション I・II）の開催結果について

（3）自立支援等プログラムの開発・人材育成事業

①自立支援等プログラムの開発

介護予防活動及び人材育成事業の評価を行い、予防と自立を指向した住民主体の地

域づくりが実践できる人材育成プログラム案の検討を行い、31年度の計画に反映する。

②人材育成事業

関係機関・団体や地域住民と協働して推進する「地域の特性や課題に即した介護予防活動（自助・互助の仕組みづくり）」を目指して、モデル地域を選定し、PDCAサイクルを意識した実践活動を支援するとともに、その過程において、関わる人材の資質向上を目的とする人材育成研修を実施した。

【地域包括ケア推進専門職研修】（愛媛県立医療技術大学・愛媛県）

日常生活圏域において、高齢者の自立支援や介護予防を指向した住民主体の地域づくりが実践できる専門職の育成を図ることを目的に、現場で地区活動に携わっている地域包括支援センター専門職、市町の生活支援体制整備事業を担う生活支援コーディネーター、市町保健師等で構成し、集合研修ならびにモデル地区での実践活動を交互に組み込んだ研修によって、地域を見る力、地域の人々と協働し実践する力、活動を評価・報告・改善する力、地域活動を楽しんで継続する力を養うための継続研修を行った。

※受講対象者（各所属長推薦）

包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、保健師等 17名

【継続研修の実施状況】

○専門職研修セッションⅠ：行政機関の保健福祉組織と仕組み、モデル地区の行政基盤を理解するとともに、地区診断の考え方や地区踏査の枠組みに関する知識や技術を習得し、モデル地区での活動演習計画の立案及び、実践のイメージや見通しを立てることを目的に実施した。

開催日時：平成30年12月7日（金）10：00～15：30

開催場所：今治市総合福祉センター 4階会議室

研修プログラム：研修目的・今治市行政組織・地区診断等の講義・演習

○地区活動演習・実践Ⅰ：モデル地区2地区、3グループ編成

担当する地区へ介入する準備として、各担当地区を歩き、気付いたこと等をグループでミーティング・記録し、インタビュー対象者の選択やインタビューガイドの作成等を実施した。3つのチームの活動には本学教員ワーキングメンバーが担当支援した。

Aチーム 担当地区：今治市桜井地区A（奥田）

実施日時：平成30年12月25日（火）

平成31年 1月10日（木）

平成31年 1月25日（金）

Bチーム 担当地区：今治市桜井地区B（入野）

実施日時：平成30年12月25日（火）

平成31年 1月10日（木）

平成31年 1月30日（水）

Cチーム 担当地区：今治市伯方町（田中美・田中昭）

実施日時：平成30年12月26日（水）

平成31年1月28日（月）

平成31年2月4日（月）

○専門職研修セッションⅡ：地区活動演習・実践Ⅰで把握した地区特性の共有を図るとともに、地区理解のために活用できる既存資料の活用理解のための講義・演習を実施

【公開研修会の開催】（愛媛県立医療技術大学・愛媛県）

第1回「地域包括ケアシステム強化事業」公開研修会

～住民主体の地域づくり実践を目指して～

・事業をスタートさせるにあたり、今治圏域の保健医療福祉活動にかかわる専門職等を対象に、予防と自立支援を指向した住民主体の地域づくりが実践できる人材の育成に焦点をあてて開催した。

開催日時：平成30年10月30日（火）18：00～20：00

開催場所：今治市民会館 2階 大会議室

参加者数：114名

第2回「地域包括ケアシステム強化事業」公開研修会

～他職種連携におけるチームビルディングとファシリテーション～

・本研修における演習や、地域住民を対象とする参加型学習を推進するうえで必須能力であるファシリテーション力、チームビルディングの方法を修得することを目的に開催した。

開催日時：平成31年3月26日（火）10：00～16：00

開催場所：今治市役所第2別館 11階 特別会議室第1・2

参加者数：39名

5) その他

本事業は2年間の事業であり、平成31年度も継続して実施する。なお、活動の詳細は議事録にて別途報告した。

7. リレー・フォー・ライフ 2018

1) 概要

がん患者・家族、支援者が集い 24 時間をともに過ごすことにより「がん」に関する正しい知識と「がん患者・家族」への理解を深め、地域社会全体でがんについて考える契機になることを目的とするリレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 えひめのチャリティ活動に、学生を主体とした全学的な組織で参加し、市民や関係者と時間を共有する。

2) 実施主体

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2018 えひめ実行委員会

3) 参加メンバー

教職員 27 名（開催時間にリレーウォークを実施したのは 17 名）

学生 64 名

4) 事業内容

(1) 日時：平成 30 年 9 月 29 日（土）17：00～20：00

(2) 場所：城山公園 堀之内地区 ふれあい広場

(3) 参加者数：がん患者、家族、支援者、一般の方 約 2,413 名

(4) 実施内容：

①リレーウォーク

②学内結団式 平成 30 年 9 月 27 日（木）

5) 評価と課題

本事業は、平成 22 年から連続して 9 年目の開催となるがんについて考える機会となるイベントである。例年は 2 日間の日程だが、今年は台風 24 号の接近による影響が懸念されたため規模が縮小となり、29 日の夕方から 3 時間のみで開催となった。短縮されたリレーウォークであったが、参加者はがんサバイバーをはじめ県内の医療関係機関が多く参加していた。雨天が心配されたが、開催中は曇りで比較的過ごしやすい気温であった。閉会式では、ボランティアとしてイベントを支援した本学臨床検査学科 3 年生の上田勇矢さんと渡部望さんが挨拶を行った。学生 3 名は本部役員として、3 月から 9 月まで月 1 回本部実行委員会に参加し協力した。当日の学生ボランティアは 57 名であった。

参加した学生の多くが、がん患者について考える貴重な経験となり参加してよかったとの感想があった。今後も、がん患者について理解を深めるイベントへの参加を促し支援していく必要があると考える。



開会式です。



横断幕を持って学生と教職員が一緒になってリレーを続けます。



ウォークの合間にテント内で夕食休憩です。



夜になって、ルミナリエに点灯されました。



セレモニーが行われました。



たすきをつないで歩きます。



閉会式で学生が代表して挨拶しました。



リレー後の記念写真です。

8. 水害災害支援ボランティア活動

1) 概要

西日本豪雨災害被災地への災害支援ボランティア活動を目的とし、住民の心身の健康と生活支援の一助となるよう主体的自主活動を実践する。

2) 実施主体・連携協力機関

主 催：愛媛県立医療技術大学 地域交流センター・学生委員会

共 催：愛媛県宇和島市・西予市

3) プロジェクトメンバー

企画者：地域交流センター：豊田ゆかりセンター長、江崎ひろみ

学生委員会

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

4) 事業内容

(1) 日時：平成 30 年 8 月～9 月

(2) 場所：愛媛県宇和島市・西予市

(3) 実施者と実施内容及び参加人数

活動名・場所	参加予定日	参加者	参加人数
傾聴ボランティア 野村小学校避難場所	8/15 (水) 午後～	看護学科 4 年生	3 名参加予定 台風のため参加中止
	8/17 (金)	看護学科 4 年生	3 名参加
	8/22 (水)	看護学科 4 年生	2 名参加
	8/29 (水)	看護学科 3 年生	1 名参加
レオマワールド引率 香川県レオマワールド	8/23 (木)	看護学科 2 年生	4 名参加予定 台風のため参加中止
足湯ボランティア きさいや広場	9/17 (月・ 祝)	教員	1 名参加

(4) 参加者の反応

- ・ 辛い災害が起こったからこそ集いの場が皆さんにとって“力”になっていました。今後看護職として対象者のニーズを考える良い機会となりました。
- ・ 西予市の良いところたくさん教えてもらいました！！
- ・ 被災者の抱える思いを実際に知ることができました。
- ・ 授業で習ったコミュニケーション、メンタルヘルスなどについて意識しながらお話しさせていただきました。災害がもたらした被害・恐怖の大きさをリアルに感じ取ることができました。学生として看護のプロを目指す者として何ができるか、考えさせられました。
- ・ 住民さんが西予市に愛着を持っていることがとても伝わってきて、温かい気持ち

になりました。

- ・ 少しでも気持ちが楽になるお手伝いできて良かったです。

5) 評価と課題

ボランティア募集は、要請から募集期間が短いこともあり、募集ポスターの学内掲示とホームページ掲載、個別呼び掛けといった迅速な広報活動と、学生・教員有志による自主活動を支援した。気象変動が激しい時期であり、参加者の安全配慮を優先し、次の台風による被災を起さぬよう慎重な参加活動に努めた。参加した看護学科学生からは、災害がもたらした被害・恐怖の大きさをリアルに感じ取り、看護職として対象者のニーズを考える良い機会となり、学びも多かったようである。



9. 麻生小学校 6 年生 大学授業見学 「共に生きる」学習

1) 概要

麻生小学校 6 年生を対象に、「共に生きる」学習の一環として、本学の学生や教職員と触れ合うことを通して、共にかかわりながら生きていること、互いに支え合いながら生活していることを感じてもらう機会づくりをする。

2) 実施主体・連携協力機関

主催：愛媛県立医療技術大学地域交流センター・麻生小学校

3) プロジェクトメンバー

地域交流センター員

4) 事業内容

(1) 日時：

第 1 回：平成 30 年 12 月 11 日（火）8：45～11：15

第 2 回：平成 31 年 1 月 17 日（木）8：45～11：15

(2) 場所：本学構内

(3) 対象者と参加者数

第 1 回：麻生小学校 6 年生 29 名

第 2 回：麻生小学校 6 年生 29 名

(4) 実施者と実施内容

① 第 1 回：平成 30 年 12 月 11 日（火）8：45～11：15

担当者：地域交流センター員（野島准教授、宮宇地助教、藤田専門員、福井主任）

協力者：基礎看護学講座（岡田准教授、青木准教授、徳永講師、相原講師、谷本助教、森助教）図書館（泉専門員）

8：45 オリエンテーション

8：55～ 大学構内探検

9：20～ 図書館紹介・本の読み聞かせ

10：00～ 演習体験 「看護～車椅子体験等～」 or 「臨床～サーモグラフィ体験～」

10：30～ 授業体験（英会話）

10：50～ 演習体験 「看護～車椅子体験等～」 or 「臨床～サーモグラフィ体験～」

11：00～ 質問対応

② 第 2 回：平成 31 年 1 月 17 日（木）8：45～11：15

担当者：地域交流センター員（佐川助教、藤田専門員）

協力者：成人老年看護学講座（島田准教授、高橋助教）図書館（泉専門員）

8：45 オリエンテーション

8：50～ 授業体験（基礎ゼミ発表会）

9：40～ 演習体験 「看護～聴診器を使ってみる体験等～」

10：30～ 図書館探索・本の読み聞かせ

11：00～ 質問対応



大学構内探索



図書館・本の読み聞かせ



演習体験（臨床検査）



授業体験（看護）



演習体験（看護）



授業体験（英会話）



授業体験（基礎ゼミ）

(5) 参加者の反応（感想文より抜粋）

- ・ 英語で授業をしている大学生がすごいと思った。
- ・ 図書館が大きくてびっくりした。家族とまた行ってみたい。
- ・ 車椅子体験では、目線が低いことを体で感じた。気を付けて使おうと思った。
- ・ サーモグラフィが身体の異常発見に役立つということが分かった。普段の生活のなかでの出来事に納得ができた。
- ・ 赤ちゃんが重くて首がぐらぐらしていたので、肘で支えるのが大事だと思った。
- ・ いろいろな部屋や機械があり、いろいろなことができるということが分かった。
- ・ マネキンがたくさんあって、リアルで面白かった。
- ・ 普段、手に触れない聴診器を使って肺の音が聞けて楽しかった。聴診器を使うのが夢だったのでうれしかった。
- ・ 大学の皆さんがとてもおしゃれでかわいくて楽しそうで、いい大学だと思った。
- ・ 知らなかったこと、やったことのなかった体験ができて良かった。医療に興味を持った。
- ・ ゼミの発表会は聞きやすい発表で、見ている人も楽しめてすごいと思った。
- ・ 学習発表会で、ゼミの学生さんたちのすばらしい発表を参考にしながら、医療技術大学の素晴らしいところや見たことのないものをみんなに教えてあげたい。

5) 評価と課題

事業依頼から実施までの期間が約 2 週間であったが、学内教職員の協力のもと参加者が多くの体験ができるような工夫を凝らした内容であった。その結果、参加者の興味・関心が得られ、本大学や看護・臨床検査についての認識を高めることができたと考える。また、参加者だけではなく小学校関係者や参加者の家族等に対しての情報発信の機会となった。

Ⅲ 調査研究

1. 住民主体の地域づくりが実践できる保健福祉の人材育成 —アクションリサーチによる研修の開発・評価—

1) 趣旨または概要

(1) 研究目的

地域の専門機関で働く保健福祉専門職が、住民主体の地域づくりが実践できるための人材育成研修を、アクションリサーチを用いて開発・評価する。

(2) データ収集期間

平成30年12月から令和2年3月

(3) データ収集方法と分析方法：

① プロセス評価：集合研修及びモデル地区活動演習への参加率

② 定量的アウトカム評価：参加者に対するアンケート調査

③ 定性的アウトカム評価：グループヒヤリングによる調査

①②は統計的分析 ③は質的分析を行う

2) 倫理的配慮

大学の研究倫理委員会の承認を受けて実施

3) 研究体制

研究責任者：野村美千江

共同研究者：田中美延里,田中昭子,入野了士,奥田美恵,鳥居順子,豊田ゆかり,宮内清子,

研究協力者：今治市高齢介護課,上島町健康推進課,今治市保健センター,今治市社会福祉協議会,上島町社会福祉協議会

4) 研究成果の報告と普及

研修参加者及び所属する機関に報告、及び学会にて公表する。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
野本百合子	公益社団法人 愛媛県看護協 会	本協会の教育委員会活動との関連から、「クリニカルラダー活用検討ワーキング」を立ち上げ、そのメンバーとして県内医療機関へのクリニカルラダー導入支援のための研修会を企画している。	県内医療機関
越智百枝	愛媛県保健福 祉部	平成 30 年度母子保健研修会について、企画運営の助言を行い、ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と実際について講演及び演習を行った。	保健師、看護 師等
越智百枝	八幡浜市	受講者よりスキル獲得のための継続的な研修の要望があり、昨年度に引き続き、八幡浜市自殺対策研修会の企画・運営の助言を行いソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と実際について講義・及び演習を行った。	保健師、看護 師等
鳥居順子 野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士 豊田ゆかり 田中昭子	愛媛県長寿介 護課 地域交流セン ター	今治地域を対象とした地域包括ケア推進事業の専門職育成研修について、地域交流センターに協力し企画・運営実施した。	保健師、社会 福祉士、生活 支援コーディネーター
野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県医療対 策課	県および市町に所属する行政保健師の人材育成に関する研修の課題抽出と企画・運営を支援するとともに、今後に向けて研修の体系化への支援を行った。	医療対策課地 域看護係
野村美千江 入野了士 田中昭子	愛媛県保健福 祉部	平成 30 年度愛媛県中堅期保健師スキルアップ研修について企画・運営の相談を受けるとともに、研修評価への助言等を行いつつ、6 カ月間の継続的な研修に参画した。	医療対策課地 域看護係
田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県医療対 策課	平成 30 年度愛媛県地域保健保健師等研修会について企画・運営についての相談を受け参画した。	医療対策課地 域看護係

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
窪田静	日本ノーリフト協会愛媛地方会	ノーリフトケアコーディネーター養成研修・ベーシック 県内開催第2回、県内出身ノーリフトケアコーディネーターによる地方会主催の初回、またベーシックに向けた啓発・普及活動としてのプレセミナーの企画・運営に参画した。	日本ノーリフト協会愛媛地方会
窪田静	日本ノーリフト協会	バリアフリー2019 特別講演「デンマークと日本における医療・介護職の腰痛予防対策」の企画・運営に参画した。	看護職・介護職・療法士等
豊田ゆかり	四国中央保健所	医療的ケア児の支援を考える会の企画に参加し、研修会では活動報告を実施	保健師・訪問看護師・学校教員・相談支援専門員等
中越利佳	(社) 愛媛県看護連盟	平成30年度会員研修「看護の現場で生きる社会人基礎力」の企画・運営	県内看護職
中越利佳	愛媛県中予保健所	第2回思春期保健スキルアップ研修会企画の相談、運営	県内保健師
今村朋子	愛媛助産師会 お産グループ 学習会	《お産学習グループ企画》『フリースタイル分娩～実践編～』という研修の企画、運営、講師としてに携わった。	県内助産師
今村朋子 井上明子	村松志保子助産師顕彰会	母子と助産師の日で、ICM元会長の「世界の助産師活動 - ICMの会長として回顧から学び期待 - 」というテーマで開催された研修の申込から終了後の作業などの運営を担当した。	全国助産師
伊藤美香	東予ひめじょ 広場「ふわふわ」	「乳幼児蘇生法・異物除去法」と「わらべ歌ベビーマッサージ」の研修を企画、運営。	乳児・母親とその家族
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会 がん看護専門部会	「がん看護実践能力向上研修」の企画委員およびファシリテーターとして40日間研修にかかわり、研修講師、事例発表会などの参加やグループワークでの助言指導を行った。次年度も、引き続き、企画委員および研修の講師やファシリテーターとして関わる予定である。	県内看護師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開(基礎編)」研修について企画運営から携わり、研修講師として研修を行った。次年度も、3年目以上の看護師を対象とした「看護過程の展開(基礎編)」の講師として企画からかかわっていく予定である。	県立病院看護職員

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
松井美由紀	愛媛県看護協会	看護管理者教育委員として、研修企画運営評価をするとともに、「ファーストレベル：人材育成」の講師としてかかわった。次年度も引き続き企画運営兼講師としてかかわっていく予定である。	県内看護師
松井美由紀	四国中央病院 看護部	看護記録について、看護記録委員会から依頼を受け、看護記録に関する研修会企画等の助言および講義（2回）を実施するとともに、看護記録のフォーマットや電子化記録の助言指導を行った。	四国中央病院 看護師
江崎ひろみ	砥部病院ケア サービス(株)	「高齢者の誤嚥予防・口から食べる支援」の研修について相談を受け、研修会企画・講師として2回実施した。	専門職：介護 福祉士・看護師 作業療法 士・調理師
江崎ひろみ 高橋博子 宮宇地秀代	宇和島市 宇和島市社会 福祉協議会 高知県立大学	「吉田被災住民に寄り添った健康・暮らし相談支援」の一つとして、健康講座の企画・講師を実施した。高齢者や幼児のお口の健康について講義・演習し、今後の継続学修の支援方法について検討を行った。	一般
山岡源治	日本臨床検査 技師会中国四 国支部	平成30年日本臨床衛生検査技師会中国四国医学検査学会（第51回）の特別企画「臨床検査技師のためのRCPC」において企画段階から関与し、合計5回の打ち合わせを行うと共に、当日の座長を務めた。	中国四国地区 臨床検査技師
山岡源治	瀬戸内血液研 修会世話人会	第7回瀬戸内血液検査研究会の世話人として、H30年8月およびH31年1月の世話人会、およびメール等により研修会の企画立案に関わり、当日はRCPCの座長を務めた。研修会には約160名が参加し、アンケート結果では大変好評を得た。	中国四国地区 臨床検査技師
山岡源治	日本臨床検査 技師会四国血 液検査研究班	年2回行われた世話人会の一員として四国血液検査研修会の企画立案に関わり、10月に血液検査研修会を開催した。	四国地区臨床 検査技師

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
山岡源治	瀬戸内フロー サイトメトリ ー研究会	瀬戸内フローサイトメトリー研究会の世話人兼座長として、企画立案に関わり、一般演題、特別講演および症例を用いた造血器腫瘍解析の実習を含む実践に則した研修会を開催した。	中国四国地区 臨床検査技師
佐川輝高	砥部町	ひろた交流センターにてチャレンジ教室を2回開いた。内容立案、講師を行った。	一般
佐川輝高	「青少年のた めの科学の祭 典」、松山大会 実行委員会、 (財)日本科 学技術振興財 団・科学技術 館	「青少年のための科学の祭典 松山大会」において内容立案、準備、講師を行った。	一般
	保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、 研修の支援合計数		27 件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究計画書の書き方、データ分析、論文の書き方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の院内看護研究研修に参加した看護師 10 名	院内看護研究発表会および愛媛看護研究学会で発表
野本百合子	県立 4 病院研修ジェネラルコース 「看護研究の基礎」	県立 4 病院研修の「看護研究の基礎」に関して、研修内容企画段階から相談にのるとともに、講師も担当し、提出された研究計画書に対する助言・指導を行った。	県立 4 病院看護師（4 年目～10 年目）	各病院内看護研究発表会、県病院学会等で発表予定
野村美千江	愛媛県の地域における保健師の保健活動に関する検討会	愛媛県の地域における保健師人材育成の現状と課題、基本的考え方、目指す方向、体制整備、能力評価の具体策等を整備した。	市町保健師（主幹・係長）、県保健師（係長・専門員）、大学教員	「愛媛県の地域における保健師人材育成指針」の公表
野村美千江	砥部町総合計画等審議会	第二次砥部町総合計画の策定にあたり、まちの目指す姿や分野別目標などの基本構想を練り、計画の全体像を体系化するプロセスに参画した。	砥部町老人クラブ、女性団体、子育て支援団体、商工会、農協、銀行、新聞社、県中予地方局、教育機関の代表等	パブコメを経て、町長に答申を行い、第二次総合計画策定に至った。
野村美千江	砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証	砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証や地方創生交付金の効果検証について意見を述べた。	同上	質問に対する担当課からの回答を経て、効果を検証した。
豊田ゆかり 枝川千鶴子	医療的ケア児と家族への相談支援機能をもつ訪問看護師の育成に向けて -「地域共生社会」実現に向かう教育プログラムの開発-	訪問看護師の相談支援機能強化にむけて、自作の訪問看護記録を用いてその成果を検討し、教育プログラムの開発を行う。研究の事務局としての役割及びデータ収集・分析・結果公表の役割をもつ。本事業は勇美記念財	梶原厚子（訪問看護ステーション 取締役社長） 豊田ゆかり 枝川千鶴子（愛媛県立医療技術大学） 諏訪亜希子（香川県立医療大学）	平成 30 年 8 月から令和元年 8 月までの研究期間のため。成果公表はしていない。

		団の研究助成金を受けて実施している。		
	保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言数			6件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った	面談（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成30年4月から平成31年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成30年4月から平成31年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	県立中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	平成30年4月から平成31年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
豊田ゆかり 鳥居順子	専門職：看護師（県内の病院）	過去に研究生として論文作成と学会誌投稿の支援を行った論文について、掲載決定まで査読への返答等の支援を行った。	面談・電話・メール
鳥居順子	専門職：臨床検査技師（本学大学院生）	勤務先で行っている検査で、研究会への発表を予定しているデータについて、統計解析の手法やデータ整理に関して助言を行った。	面談・メール
野村美千江	専門職：保健師	自治体保健師のOJTに関する相談への対応	電話・メール
野村美千江	専門職：保健師	災害発生時における保健活動体制と評価	電話・メール
野村美千江	専門職：保健師	地域保健福祉の研修企画に関する助言	電話・メール
田中美延里	専門職：保健師	保健師対象の研修企画に関する助言	来校
田中美延里	専門職：保健師	保健師対象の研修企画に関する助言	電話・メール
窪田静	県内の障害者施設	リフト導入支援	訪問、相談
窪田静	医療法人朝陽会 美須賀病院	技術支援、教育支援	訪問
窪田静	西条市民病院	技術支援、教育支援	訪問
窪田静	伊予市社会福祉協議会	ノーリフトケア実践における助言と外部との連携推進	訪問
窪田静	愛媛県長寿介護	ノーリフティング事業計画への助言	来校、訪問

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
窪田静	株式会社いうら	開発及び教育への助言	来校、訪問
窪田静	豊島株式会社	技術開発への助言	来校、訪問
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に向けて、研究論文の内容とまとめ方について助言を行った。	訪問
中平洋子	専門職：看護師	学会発表に向けて、研究論文の内容とまとめ方について助言を行った。	訪問
入野了士	専門職：保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	来校・電話・メール
入野了士	専門職：保健師	若手保健師による地区活動のまとめについて、抄録作成と口演発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
豊田ゆかり	看護師	学会誌に論文を投稿するために助言した。	面接・メール
中越利佳	助産師（県内）	県内施設に勤務している助産師から大学院進学に関しての相談を受けた。	面接
中越利佳	一般	更年期症状、婦人科疾患についての相談を受けた。	電話
今村朋子	助産師 （県内施設勤務）	卒業生による今後の進路について相談があり、新しい職場への勤務変更についての助言を行った。	面接
井上明子	助産師（県内施設勤務）	卒業生による今後の進路について、大学院進学も視野に入れた相談があった。大学院への進学に関しての準備についてや現在の職場での勤務の継続等について助言を行った。	メール
井上明子	助産師（県外施設離職者）	県外施設に就職していた卒業生が退職し、挨拶に来られた。その際、愛媛県での助産師としての再就職先を検討していたため、新たな就職先について提案した。	面接
藤原紀世子	看護師（県内病院離職者）	以前県内の病院で研究支援を行った、本学短大時の卒業生が挨拶に来られた。現在は離職し、育児に専念しているが、自己研鑽のため研修を受けているとのことで、大学や大学院など進学についても提案した。	面接
伊藤美香	一般	子供の発達障害についての相談を受け、受診施設等の検討を一緒におこなった。	メール
伊藤美香	一般	産前・産後ケアの実施について相談を受け、関連文献の紹介をした。	面接・メール
松井美由紀	専門職：看護師	看護学実習に関する相談を受け、助言をした。	直接

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
江崎ひろみ 高橋 博子 宮宇地秀代	一般	宇和島市吉田町被災住民の健康・暮らし相談を実施した。高齢者の健康相談、乳幼児の保護者への育児相談、被災後の心的ストレスへの傾聴と必要な社会資源の情報提供を行った。	訪問・面談
高橋 博子	一般	宇和島市きさいや広場にて、訪れた周辺地区住民を中心に足湯ボランティアを実施した。足湯を介し住民の心身をほぐすと共に、傾聴を行い困りごとのすくい出しを図った。	訪問
岡村法宜	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	誘発筋電図F波の測定法について問い合わせを受け、助言を行った。	メール
岡村法宜	高等学校理科教員(県内の高等学校)	動物臓器を使用した標本作製について問い合わせを受け、助言を行った。	メール
岡村法宜	専門職：看護師(県内の病院)	生理学の欧文文献の和訳について、問い合わせを受け、添削した。	メール
北尾孝司	専門職：臨床検査技師 (県内の病院)	ESBL 産生 Escherichia coli の Sequence Type ST131 に関して質問を受けて説明した。	直接
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	平成 30 年日本臨床衛生検査技師会中国四国医学検査学会(第 51 回)の一般演題について、抄録および発表原稿の相談を受け、指導を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	平成 30 年日本臨床衛生検査技師会中国四国医学検査学会(第 51 回)の一般演題について、抄録原稿の相談を受け、指導を行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	血小板無力症のフローサイトメトリー検査法に関する相談を受け、文献の紹介と検査室の実際的な対応についてアドバイスを行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	発作性夜間ヘモグロビン尿症の検査法に関する相談を受け、文献の紹介と検査室の実際的な対応についてアドバイスを行った。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	新生児のヘモグロビン F 検出法であるベトケ法に関する相談を受け、文献の紹介と検査室で実施可能な他のヘモグロビン F 検出法をアドバイスした。	メール
山岡源治	専門職：臨床検査技師 (香川県の病院)	多発性骨髄腫にリンパ腫の合併が疑われる症例について相談を受け、文献の紹介と検査室の実際的な対応についてアドバイスを行った。	メール

氏名	相談者	相談内容と対応	相談方法
佐川輝高	砥部町総務課	砥部町災害ボランティア・アマチュア無線クラブ総会後、砥部町の地質と自然災害との関連性について質問を受けて情報の提供を行った。	面談
	保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の 相談対応合計数		45件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	・愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 谷本淳子 森敬子	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員）	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	・事務局の担当 ・学習会のための会場確保 ・会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子 青木光子 谷本淳子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 森敬子	愛媛県看護教員 継続教育研修 （愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員）	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会ⅠからⅢまでの3回にわたって研修会開催時の運営にあたった。	・研修会の企画立案 ・外部講師との連絡・調整 ・研修会でのファシリテータ・司会 ・会場の調整・提供
越智百枝	市民公開セミナー	愛媛県断酒会が主催する市民公開セミナーで「アルコール健康障害対策推進計画の概要を知り、断酒会及び関係機関との連携を推進する」というテーマでシンポジウムを企画し、コーディネーターとして講師依頼やシンポジウムの運営を行うと同時にシンポジストとしてアルコール健康障害対策推進計画の推進に向けての断酒会に期待される役割について講演した。	研修会の企画・運営の助言と実施

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
窪田静	一般社団法人日本ノーリフト協会	持ち上げない介護、抱え上げない看護を推進	様々な事業についての相談役
窪田静	一般社団法人て・あーて推進協会	手を用いた看護の技を開発・啓発	愛媛県内での啓発・普及活動のサポート
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約30名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会で、16年目を迎えた。 隔月開催により、平成30年度は、自身が行う保健福祉活動を積極的に発信することを目的に、「保健師として〇〇を伝える」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向けて実践し、6回の学習会で報告・共有し、討論を行った。グループワークを多く取り入れ、幅広い世代・部署のメンバーが意見交換ができるように、運営方法にも工夫を取り入れている。	学習会内容の企画運営の助言や実施
中越利佳	いのちの懇談会えひめ エンブリオえひめ	妊娠SOSホットライン、エンブリオ基金（1円募金による出産支援）、生命尊重啓発セミナーの企画・運営	会員として活動に参加、セミナーの企画・運営および勉強会講師
井上明子	NPO法人子育て・発達支援ネットワークはぐくみ（小児科医・心理学教授・臨床心理士・助産師等で構成）	主には発達障害児を育てる母親やその家族に対する育児支援を行う団体である。市町村からの依頼で両親学級などに出向き子育て相談や妊娠期の過ごし方などについて講演を行う。1年に2回程度の依頼があり、1回参加した。	妊婦とその家族に対して助産師による出産育児について講演

氏名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
井上明子 伊藤美香	NPO 法人ラ・ファミリエ	病気のある子どもと家族を支援する団体により、エミフルMASAKI でゆめプロジェクトこどものいのちと体を守るお仕事体験が年に1回開催される。医師・看護師・助産師・救命救急士などのお仕事体験を行う中で、助産師ブースは、新生児のだっこや着替えなどを人形を使用して子供たちが体験する。	助産師のブースを担当
高田智世	(社) 愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	・愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、学会の開催や精度管理を実施	論文の編集方針や投稿規定等の見直し
	患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数	11 件	

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護研究学会	・看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	学会誌査読委員
中西純子	日本看護研究学会 中国・四国地方会運営委員会	・地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進（学術セミナー）、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	副会長
中西純子	日本看護科学学会	・看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	代議員
中西純子	日本がん看護学会	・がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	代議員 学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	・看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 ・学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	高知女子大学看護学会	・高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など ・左記学会の論文査読を年1件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	・ナースセンターの運営について検討 年2回委員会開催	運営委員
中西純子	看護職員確保・県内定着推進協議会	・愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成28年より設置された。	協議会委員
中西純子	愛媛県国民健康保険運営協議会	・市町村国保の安定的な財政運営や効率的な事業の確保等に関し審議する	委員（公益代表）
中西純子	愛媛県医療費適正化計画推進会議	・医療費適正化計画の策定、見直し、計画の進捗状況、評価に関する事、医療費の調査及び分析に関する事、等	委員（学識経験者）

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	高知県立大学看護研究倫理審査委員会	・左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員
中西純子 野本百合子 田中美延里 松井美由紀	日本看護科学学会第38回学術集会	母体である日本看護科学学会は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的に発足した学会である。主な活動内容は学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、JANSセミナーの開催、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動、その他本会の目的達成に必要な事業である。	企画・実行委員
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（広報、学術、がん対策担当）、会報編集委員
草薙康城	日本妊娠高血圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	愛媛県産婦人科臨床セミナー	愛媛県内における産婦人科医師に対する臨床的な支援を行う。	世話人
草薙康城	愛媛県医師会医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会に加わる。	支援医
草薙康城	順風会精度管理委員	がん検診、特定健診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会	都市計画法第78条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員
鳥居順子	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会	愛媛県の健診・医療・介護に係る客観的なデータに基づく全県的な疾病予防や健康づくり等を推進し、健康寿命の延伸、医療費の抑制等をはかるために設置されている。	委員
鳥居順子	砥部町介護保険サービス事業者選定委員会	砥部町における地域密着型サービス等の介護サービス基盤整備の充実を図るため、介護保険サービス事業者を公募し、厳正かつ公平に審査する。	委員
金澤知典	一般社団法人電気学会 非整備環境現場に駆動されたパターン認識技術の応用 協同研究委員会	パターン認識技術とその応用に関し、特に十分な条件整備ができない環境の現場において国内外で開発されている新しい技術や手法、人が関係する環境全般でのパターン認識の応用に必要な技術、さらに人間の視覚感性とパターン認識技術の応用について、調査・研究を行うことを目的とする。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	公益社団法人 愛媛県看護協会	本協会は、愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	理事 第38回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	新人職員研修 推進協議会 (愛媛県看護協会)	本協議会は、県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置され、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催している。	委員
野本百合子	一般社団法人 日本看護学教育学会	本学会は、看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与することを目的とし、学術集会の開催、学会誌の発行、看護学教育に関する研究および情報交換、研究助成、看護に携わる者の人材育成、国内外の看護学教育に関連する諸組織との連携等の活動を展開している。	査読委員
野本百合子	千葉看護学会	本学会は、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進することを目的とし、現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営を行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
徳永なみじ 相原ひろみ 坂元勇太 長尾奈美 高橋博子 西森旬恵 今村朋子	愛媛県立医療技術短期大学・愛媛県立医療技術大学・大学院同窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	理事
野村美千江	全保教保健師教育コアカリ委員会	公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラムの活用を推進するため、教材の開発、カリキュラムマップの作成、実習計画例の作成を行い、全国教員研修会の分科会で披露した。	副委員長
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	理事・査読委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の4領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	査読委員
野村美千江	松山市社会福祉審議会	松山市における福祉行政施策や事業の実施・評価について協議する。民生委員審査専門部会において民生委員を審査する。	委員
野村美千江	砥部町国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見具申等を行う。	会長
越智百枝	愛媛県精神医療審査会	平成26年8月より審査会委員の委嘱を受け、毎月1回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
越智百枝	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会委員	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会委員として委員会に参加した。	委員
越智百枝	愛媛県依存症対策連絡調整会	愛媛県依存症対策連絡調整会委員として会議に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。今年度計画の事業の実施評価を行った。かかりつけ医と精神科医の連携の手引きを作成した。	委員長
越智百枝	松山市社会福祉施設整備審査会	平成 29 年 4 月より委嘱を受け、審査を行った。	委員
越智百枝	八幡浜市自殺対策ネットワーク会議	委員として八幡浜市自殺対策計画の策定を行った。	委員
越智百枝	日本看護研究学会評議員	平成 26 年 4 月より評議員の委嘱を受け、評議員会に参加した。また、中国・四国地方会の運営委員会で監事の委嘱を受け、会計監査を行った。	評議員、地方会運営委員 (監事)
越智百枝	日本看護研究学会専任査読委員	日本看護研究学会選任査読委員として学会発表抄録の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
越智百枝	日本精神保健看護学会査読委員	平成 29 年 7 月より査読委員の委嘱を受けた	査読委員
越智百枝	日本家族看護学会第 25 回 学術集会企画委員	平成 29 年 9 月より委嘱を受け、平成 30 年 9 月の開催に向けてプログラム委員として企画運営に参画した。	企画委員
越智百枝	高知女子学会 査読委員	査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
田中美延里	日本ルーラルナースィング学会	へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会。	学会誌査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
田中美延里	日本ルーラルナースィング学会第13回学術集会	へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会。第13回学術集会開催にあたり、企画運営を担当した。	企画委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員
田中美延里	全国保健師教育機関協議会 中国四国ブロック	全国の保健師教育機関の発展と保健師教育の充実を図ることを目的とした団体。中国四国ブロックの保健師教育機関教員を対象とした研究会を企画した。	委員
窪田静	三輪書店	1年間に発行された作業療法ジャーナルを論評し、企画を提案する。	編集同人
窪田静	愛媛県社会福祉協議会	えひめ福祉用具フェアを開催するための実行委員会、セミナー作業部会のメンバーとして、えひめ福祉用具フェアの企画・運営にあたる。	委員
窪田静	愛媛県介護ロボットのニーズ・シーズ連携協議会	各都道府県に設置された連携協議会の中で、介護ロボットのニーズとシーズを調査、協議し、企画案を提出した。	委員
窪田静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会・看護技術学会ポジショニング研究班として、エビデンスに基づく看護技術の啓発・普及活動を行った。	班員
中平洋子	日本精神保健看護学会	精神保健看護学の発展をはかり、広く知識の交流に努め、もって人々の精神の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
中平洋子	高知女子大学看護学会	看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦を計り、もって看護の向上に資することを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中平洋子	伊予市自殺対策計画策定審議会	誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざし、伊予市の自殺対策計画を策定する審議会。	副委員長
中平洋子	砥部町自殺対策計画策定委員会	関係機関と連携した自殺対策を推進し、だれも自殺に追い込まれることのない砥部町の実現を目的で自殺対策計画を策定する委員会。	砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員
奥田美恵	松前町国民健康保険運営協議会委員	平成30年度松前町国民健康保険運営協議会委員として松前町国民健康保険の適正な運営を図る。	委員
奥田美恵	高知女子学会	平成30年度査読委員として高知女子学会誌への投稿原稿の査読を1件行った	査読委員
入野了士	ビッグデータ活用県民健康づくり事業分析ワーキンググループ	健診・医療・介護のビッグデータに基づく全県的な疾病予防・健康づくり事業等を進展し、健康寿命の延伸、医療費の抑制を図るため、県ビッグデータの分析、検討、資料化を行った。	委員
入野了士	愛媛県看護協会 保健師職能委員会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施等を行った。	委員
窪田志穂	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	広報委員
野村美千江 田中美延里 窪田静 奥田美恵 入野了士 窪田志穂 長尾奈美 田中昭子 永井さつき 江崎ひろみ	日本公衆衛生看護学会第8回学術集会	2020年1月11・12日に愛媛県松山市で開催予定の日本公衆衛生看護学会第8回学術集会において、企画運営に参画している。	企画委員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
豊田ゆかり	松前町介護給付等審査会	障害者総合支援法に基づく、適切な障害区分認定を判定するための会議に出席。	委員
豊田ゆかり	日本小児看護学会	日本小児看護学会誌の論文査読委員実施。	査読委員
小嶋理恵子	全国助産師教育協議会	全国助産師教育協議会広報委員としてニュースレターの発行に携わった。主に原稿依頼・構成に携わった	広報委員
枝川千鶴子	特定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもと家族をサポートする活動を計画・実施	理事
枝川千鶴子 松井美由紀 宮宇地秀代	リレー・フォー・ライフ・ジャパンイン愛媛 実行委員会	がん対策支援事業「リレー・フォー・ライフ」の実行委員として企画・運営・評価をした。	実行委員
中越利佳	愛媛県看護連盟	会員向けの研修会の企画運営、および会員情報ネットワークの整備	教育支部オブザーバー
中越利佳	日本看護科学学会	第38回日本看護科学学会学術集会における演題の査読	査読委員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会 広報委員会	監事：愛媛助産師会の運営 広報委員長：会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理、メール配信システムの整備を行った。	監事・広報委員長
今村朋子 伊藤美香	一般社団法人愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動。研修・イベントの企画運営等	役員
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師会	県内1カ所の助産所機能評価を行った。	評価委員
今村朋子	2020年日本助産師会総会 実行委員会	2020年に愛媛で開催される、日本助産師会総会実行委員長として、会議などの開催を行った。	実行委員長
井上明子	日本助産学会	助産学における研究的知見を学会誌を通じて発信する。主な事業は学会誌に投稿した論文の査読を行う。	学会誌査読委員
伊藤美香	東予ひめじょ広場「ふわふわ」	愛媛助産師会の子育て・女性健康支援の一環として西条市丹原町で子育て相談を毎月1回開催。	相談員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
島田美鈴	高知女子大学 大学院がん看護学領域修了生の会『アストラル』	・がん看護の質向上のための自己研鑽、情報交換および修了生のネットワーク作りを目的する。 ・学習会年間計画	副委員長
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価を行った。	看護管理者教育委員 委員長
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会 がん看護専門部会	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価をした。	企画委員
松井美由紀	愛媛県看護協会 臨床ラダー活用検討ワーキング	日本看護協会では推進されている JNA ラダーを愛媛県看護協会として愛媛県における病院施設等に推進していくための活動を行った。	ワーキングメンバー
永井さつき	松前町介護基盤整備のためのサービス事業者選考委員会	松前町高齢者福祉計画（第7期介護保険事業計画）における施設整備に係る介護サービス事業者の選考	委員
江崎ひろみ	日本健康体力栄養学会	体力栄養の知識と技術の進歩・普及発展のために、体力と栄養の関係を研究・研修し、その成果を健康を目指した運動及び栄養の実践活動に応用し、国民の健康増進及び成人病の一次予防に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行をした。	評議員
北尾孝司	(一社)愛媛県臨床検査技師会	臨床検査及び衛生検査に関する技術及び知識の向上並びに県民の衛生思想の普及及び啓蒙を通じて、医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。	監事
北尾孝司	日本臨床検査医学会中国四国支部	臨床検査医学(臨床病理学)に関する学理およびその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互および内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学(臨床病理学)の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与する。	評議員

氏名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
伊藤晃	愛媛県臨床検査技師会精度管理委員会	愛媛県内の病院検査室及び衛生検査所等における検査精度の質的向上を図るために、年1回精度管理調査を行い、結果報告会の開催や精度管理報告書を作成する。	顧問
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	・松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。	精度管理専門委員会委員
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	・愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 ・衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	・臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立 ・中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員 H30年度は、全国集会の実行委員として企画副委員長を担当
高田智世	(社)愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、精度管理を実施した。	会誌編集委員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会中国四国支部の運営に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
	行政や各種関係団体の理事・委員等の活動合計数		101件

6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱されたボランティア活動等）

氏名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	役職名
奥田美恵 窪田志穂 坂元勇太 長尾奈美 今村朋子 高橋博子	日本看護科学学会	第38回日本看護科学学会学術集会の運営ボランティアとして運営に携わった。	看護師、保健師、助産師等
	その他の活動合計数		1件

V 学生の地域交流 活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績

- (1) ボランティア登録数 個人登録 58 人、団体登録 6 団体（平成 31 年 3 月現在）
- (2) 外部団体からのボランティア募集要請件数 16 件
- (3) ボランティア活動実績 6 件

学生ボランティア活動実績（平成 30 年度）

	名称	主催	時期	場所	参加 学生数	活動の内容
1	愛媛障害者 スポーツ大会	愛媛県	5 月 27 日 (日)	愛媛県 総合運動公園	16 名	競技運営の ボランティア
2	水害支援 ボランティア	愛媛県医療技術 大学	8 月～9 月	野村小学校 避難所	6 名	傾聴ボランティア
3	「秋の全国交通安 全運動」交通茶屋	松山南警察署	9 月 21 日 (水)	松山南警察署	4 名	交通茶屋運営の サポート
4	リレー・フォー・ラ イフ ボランティア	RFL2018 えひ め実行委員会 (地域交流セン ター事業)	9 月 29 日 (土)	城山公園	64 名	リレーウォークほ か
5	リレー・フォー・ ライフ実行委員	RFL2018 えひめ実行委員 会	月 1 回程 度	愛媛県総合保 健協会など	3 名	実行委員として企 画・運営
6	愛媛国際映画祭 プレイベン	愛媛県	3 月 15 日 (金) ～ 3 月 17 日 (日)	松山市内	3 名	会場誘導など

ボランティア参加学生数（延べ）96 名

*なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボラン

ティアもある。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書 77 ページに掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル 6 つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ大作戦について紹介する。

自治会主催 クリーンアップ大作戦

今年も行われたクリーンアップ作戦&球技大会は、たくさんの学生・教職員の皆様に参加していただきました。朝から分担して校内の清掃を行いました。落ち葉の量も多く、大変でした。しかし、お昼には校内のいたるところが綺麗になっており、自分たちで学校を綺麗にすることはとても気持ちのいいものでした。その後は部屋に戻り、参加者全員でご飯をおいしくいただきました。今年もクリーンアップ作戦の参加者には無料でお昼ご飯を提供しました。ご飯の後には抽選会を行い、とても和やかな雰囲気でも楽しむことができました。球技大会では、久しぶりにバレーボールで体を動かし汗を流しました。先輩後輩関係なく、参加者全員で楽しくバレーボールを行うことができました。準備は大変でしたが、参加した皆さんからの「良かった」の声は自治会一同とても嬉しかったです。



STS サークル

部長 角田 実優

私たちSTSサークルは愛媛県内でボランティアを行うサークルとして活動をしています。学生それぞれが、大学からのボランティア活動の募集、先生からの依頼、地域からの依頼などのなかから自分たちが参加したいボランティアを探し、自分たちのペースに合わせ参加を行っています。

平成30年度の活動内容としては以下の通りです。

- ・オープンキャンパスでの学生相談
- ・リレー・フォー・ライフ・ジャパン in えひめ での運営補助
- ・第13回 愛媛県障害者スポーツ大会の運営補助
- ・第11回 なかよし村まつりの参加

様々なボランティア活動に参加することで、多くの方との出会いや、人と関わることの大切さ、楽しさを感じました。さらに、誰かのために働くことの素晴らしさや、尊さを学びました。そして私たちは、これからも、ボランティア活動を通して多くの人と関わることで、私たち自身も成長していきたいと考えます。



愛媛県障害者スポーツ大会の様子

手話サークル Sign

部長 松本 絢香

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日に講師の先生から手話を学ぶことと、イベントに参加し手話コーラスを披露することをメインとして活動しています。手話の知識を増やしたい、将来医療従事者として働く際に手話を役立てたい、手話コーラスをやってみたい、様々な目標や興味を持った人が集まり、手話を学んでいます。

今年度の活動の1つとして、6月2日、昨年に引き続き、指定障害福祉サービス事務所 共同作業所「なかよし村」で行われる「なかよし村まつり」において、手話コーラスを披露する機会を頂きました。まつりに参加している方も一緒に楽しめるように、事前に利用者の皆さんに曲をリクエストして頂き、2曲披露するうち1曲は、リクエストで挙がった5曲をメドレーに編集して手話コーラスを披露しました。メドレーはポピュラーな曲が多く、また明るく楽しい曲ばかりだったため、見て下さっている方々も一緒に口ずさんだり手話を真似したりして下さり、心が温まりました。また、本番終了後に手話コーラスを見たろう者の方が手話で私たちに話し掛けて下さり、お褒めの言葉と手話の活動を応援する言葉頂いて、本当に嬉しかったです。またその時、拙いながらも手話を使って初対面の方とお話できたことは、私たちの自信にも繋がりました。

学園祭で手話コーラスを披露した際も多くの方から温かい言葉を頂き、すごく達成感を感じました。今後も、Sign の活動を通して様々な人と交流したり手話に触れたりする機会を増やしていければと思います。週に1度、1時間の活動で身に付いている私たちの手話の力は決して大きなものではありませんが、頂いた機会を生かしつつ、部員一同励んでまいります。



Peer サークル

私たち Peer サークルは、中学生、高校生、大学生など若者を対象に「性や生に関する正しい知識をもってほしい」「自分を好きになってほしい」という願いをもって、ピアエデュケーション、ピアカフェなどの活動を行ってきました。Peer とは「仲間」という意味です。思春期ピアカウンセラーの資格をもった私たちと同じ目線・同じ立場で「性や生」について考え、「自分自身のことを思いやり大切にすること、同時に自分のことも大切にすること」の重要性を実感してもらえるように活動をしています。

今年からは、本格的にピアカフェという活動を始めました。性やカウンセリングについての知識がある私たちが寄り添いながら、自分のこと、友達のこと、好きな人のこと、体や心について話したりすることができるピアカフェという空間を月 1 回程度、中学生、高校生、大学生を対象に提供しました。より関心をもっていただくために、比較的集まりがよい大街道などでも実施しました。

「性」や「生」に関する言葉をきくと、「恥ずかしい、いやらしい、話しづらい」などのマイナスイメージを持つことも多く、抵抗を感じる方も多くいます。しかし、私たち若者にとって、妊娠・中絶・避妊、LGBT に関すること、性感染症に関すること、など知っておかなければならない正しい知識があります。それらを、私たちらしく温かみのある雰囲気の中かで伝えられるように、と活動してきました。

私たちは、この活動に誇りを持っています、より多くの方に Peer について知っていただき、活動の幅を広げられるようにこれからも精進していきます。



医技タット

部長 大西 裕香

医技タットは、「東日本大震災に学び、南海地震に備える」という理念を掲げ、平成26年に設立された災害医療ボランティアサークルです。今年度は、7月に発生した西日本豪雨災害において、他サークルと協力し、学内、近隣スーパーでの募金活動を行い、被害の大きかった、愛媛、広島、岡山に被災者支援をさせて頂いたことが一番心に残っています。また、地域に根差した活動をするのを念頭に、他大学の方々と関わり合いながら、防災活動、防災教育を行いました。同時に、個人の防災意識や能力を高めるため、BLSや防災士の資格取得を積極的に行いました。南海トラフ地震が今後30年以内に発生すると言われていたため、中学校から依頼を受け、中学生にHUG講習もさせて頂きました。

今後も、活動を通して学んだことを自分の身だけに留めるのではなく外部に発信したり、啓発活動を行いながら、世代関係なく色々な方々と共に活動を行っていきたくと考えています。



中学生にHUG講習の様子



フラサークル ティアレ

部長 立花優依

私たちフラダンスサークルティアレは、毎週月曜日に活動を行っています。月に1度講師としてフラダンスの先生に来ていただき、レッスンを受けています。活動としては、毎年学祭でフラダンスの披露をしている他、介護施設の方等から声をかけていただいたときに施設でフラダンスを披露させていただき、利用者の方々との交流を行っています。

平成30年度には、7月1日に麻生児童館での七夕まつりにてフラダンスの披露、9月17日に高尾田集会所にて敬老会でのフラダンスの披露をさせていただきました。また、10月27日の本学学生祭では麻生児童館の児童の方と共にフラダンスの披露をさせていただきました。

全国の大学にフラダンスサークルは数多く存在しますが、地域との関わりの強い医療技術大学である本学は、介護施設、老人ホーム、デイサービス、児童館や集会所など地域住民の方々との交流できる場を中心に活動しています。施設でフラダンスを披露する際には、観覧者の方とフラダンスを一緒に踊るようにしています。フラダンスを一緒に踊ることで、より深く交流することができるだけでなく、観覧者の方々も実際に踊りに参加することができ、毎回「楽しかった」「また来てほしい」等のうれしい言葉を頂いています。

私たちのフラダンスはまだまだ未熟ではありますが、先生のレッスンを受け、踊りの技術を上達させていき、地域の方々の笑顔をたくさん生むことができるようにこれからも精進してまいります。

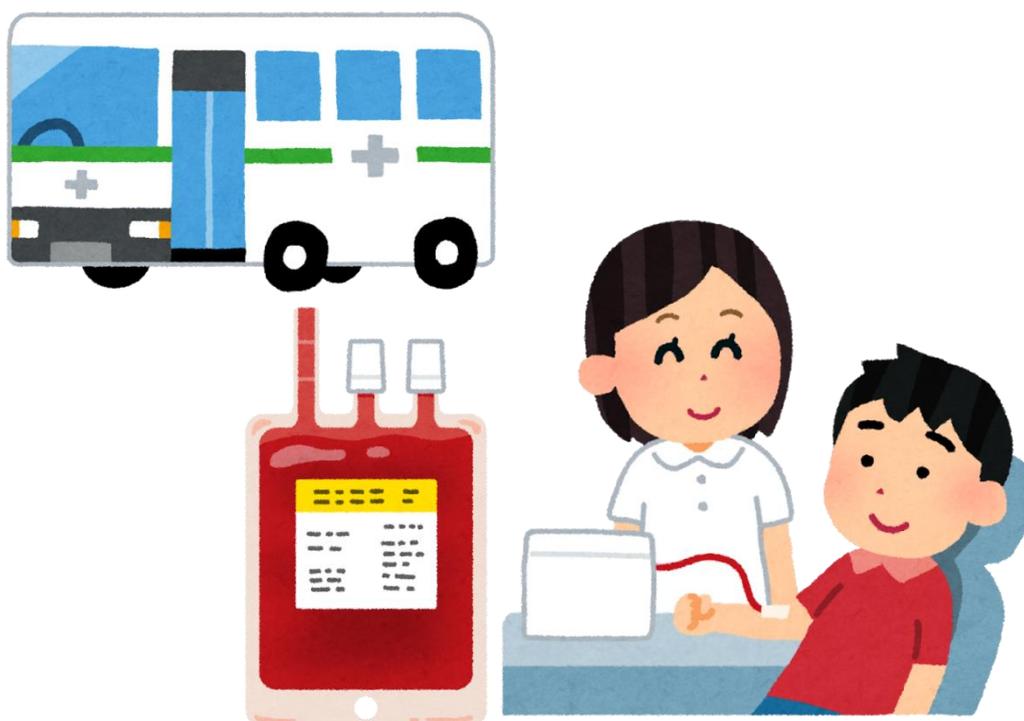


学生赤十字奉仕団

部長 村上美帆

私たちは献血推進活動や募金活動を中心にボランティアを行っています。献血推進活動では、大学や献血ルームで献血の呼びかけを行っています。少しでも献血者数を増やすために、月に一度県内の学生で集まって会議を行ったり、中国・四国ブロックの学生で集まって活動報告をするなどして、よりよいボランティア活動の向上に努めています。愛媛県は中国・四国ブロックに属しており、他県で行っている活動を研究し、一人ではできないことも、同じ目的を持った人が集まることで少しでも多くの方に献血していただけるよう、人々の関心を高めるために活動しています。愛媛県内の学生や、他県の学生たちと和気あいあいと活動しています。また、防災活動、東日本大震災で被災された方々への支援、HIV/エイズ予防啓発活動などに取り組んでいます。

学生赤十字奉仕団に参加し、活動することはボランティアの活動意義について深く考えるきっかけとなりました。自分たちが活動を行うことで献血者数が増え、人々の笑顔を見ることで達成感を感じることもできました。また、仲間と上手く連携することの大切さを学ぶことができました。仕事を分担して仲間との協力を生かし、1つのプロジェクトを進めるといったことは、チーム医療が大切な医療従事者を目指す私たちにとって、それぞれの現場で同僚と協調して物事を円滑に進められることに活かすことができると思います。その他にもボランティアをすることで様々なことを学ぶことができます。採血について学ぶことも多く、自分は採血できないから関係ないではなく、採血できなくても呼び掛けることは誰にだってできます。この学生赤十字奉仕団での活動が少しでも学生たちのボランティアをするきっかけになることを願っています。



VI 地域への施設開放 状況

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～9月 10：00～11：30

10月～3月 11：00～12：30

開催回数：年間 42 回

利用者：砥部町住民

利用人数：35 人程度/回、延べ人数 1,511 人

<活動の様子>



VII 參考資料

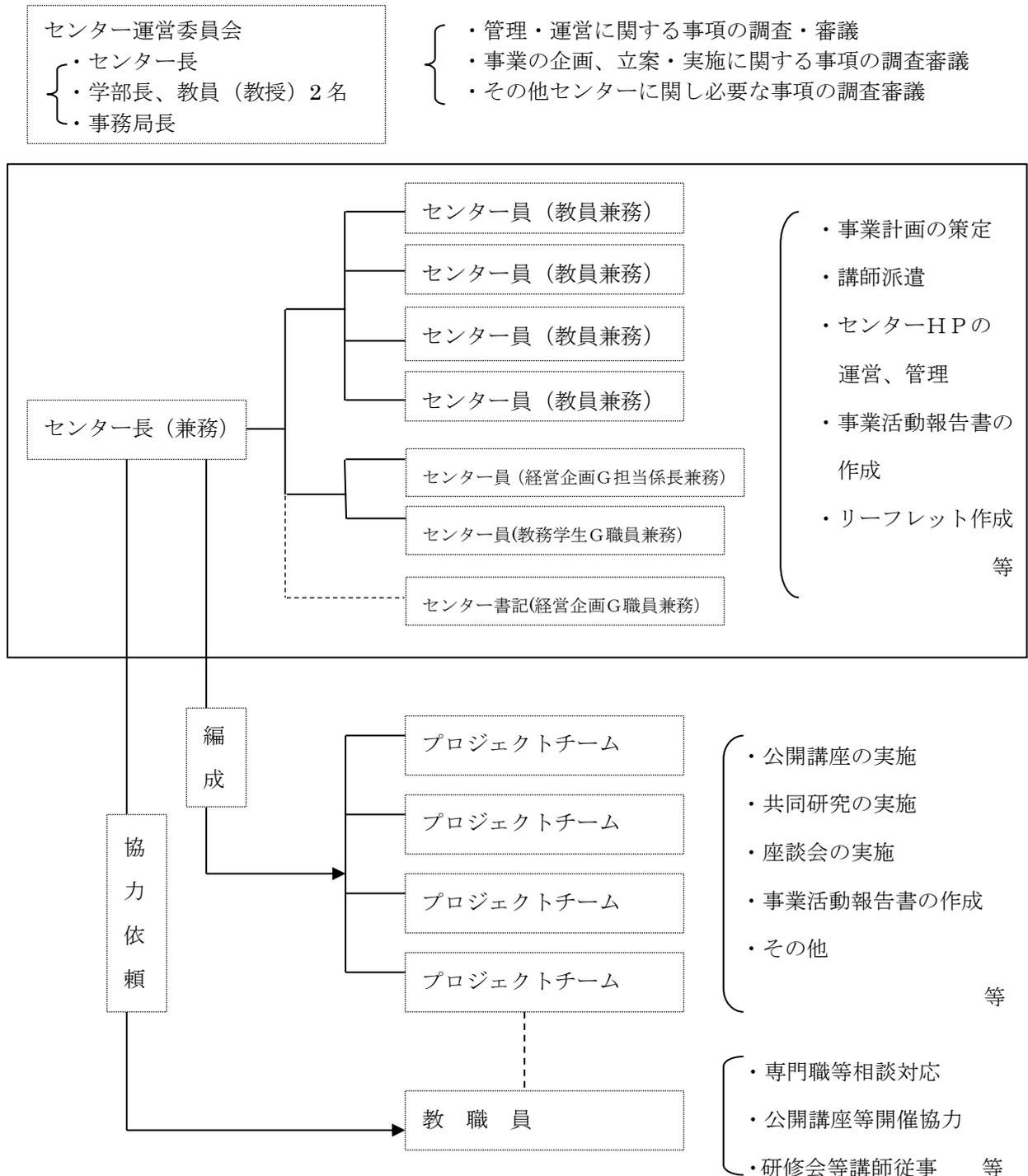
Ⅶ 参考資料

地域交流センターの組織（平成 31 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 8 名（教員 6 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地域交流センター運営図



(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

